清水建設株式会社

https://www.shimz.co.jp/company/csr/environment/performance/living/

《将来に向けた取組方針》

グループ環境ビジョン「SHIMZ Beyond Zero 2050」（2050年、カーボンゼロ・廃棄物最終処分ゼロ・自然に与える負の影響ゼロ）を見据え、中期経営計画＜2024-2026＞では、建設現場での自然環境分析「自然KY」実施率を100%にするKPIを設定しています。
サプライチェーン上の自然関連課題への取組の推進や、ネイチャーポジティブに寄与する工法や技術の研究開発・事業創出などを行い、TNFD情報開示などを通じて進捗を報告します。

しぜんケーワイ
自然KY実施率100%

受注前段階から独自に建設現場での自然関連評価を実施する取組。自然毀損の「KY（危険予知）」をし、自然を再生創出する「KY（機会予測）」を早期に行うことで、ミティゲーション・ヒエラルキーに基づく対策を実施。

(PLUS)
グリーンインフラ＋による持続可能な地域づくり

自然の機能を活かしたインフラ整備に当社の保有技術等を「+」して、自然の恵みを還元し、持続可能な地域作りに貢献。自然共生サイト技術研究所再生の杜ビオトープでの環境教育や、顧客への支援を通じてネイチャーポジティブに寄与する活動を推進。

コンクリート型枠で使用する
非認証の外国産合板をゼロ

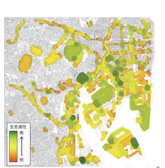
コンクリート打設時の型枠合板を自然関連重要課題の1つに特定。2030年に非認証の外国産合板の使用をゼロにするという目標を設定し、関係者間での情報共有や意見交換、型枠を扱う取引会社向けの勉強会や新規製品開発などの取組みを推進。

休耕田の湿地グリーンインフラ再生
「ハツ堀のしみず谷津」での実証と展開

活動を通じ、ネイチャーポジティブに寄与する技術や知見の確立を目指す。多様な主体の連携による共創や、営農以外の「人と自然の新たなかかわり」を探索。デジタル技術を活用したモニタリングや、NbSによる防災減災技術の開発などを進行。

2030年、最終処分率 **3.0%** 未満
プラ 最終処分率 15% 以下

建設事業の下流における重要課題である建設副産物。
全社一体となって4R 活動（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）を推進。難題であるプラスチック廃棄物にも目標を設定。



都市の生態系ネットワーク評価システム
「UE-Net®」による 自然創出 支援

高解像度の衛星画像から市街地の緑を抽出・分類し、草地、樹林、水辺といった環境に応じて、生きものにとっての生息適性を高精細にマッピング。緑地計画での支援を通じて、主に都市域で自然の創出に貢献。